

熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

平成30年(2018年)4月発行

通算155号

2018 4 月号

熊本地域医療センター理念

かかってよかった。

紹介してよかった。

働いてよかった。

そんな病院をめざします。

CONTENTS

2面 市民公開講座

3面 市民公開講座

出動協力医総会

4面 退任の挨拶

「より良い病院を目指して」 日本医療評価機構の病院機能評価認定 (3rdG : 一般病院2)に合格しました

病院機能向上推進委員会委員長 笹原 誉之

先日、病院機能評価の認証内定通知が来ました。昨年9月11日・12日に訪問審査があり、11月に中間評価を受け取りました。それから改善策を検討・実施し、報告書提出完了が本年正月明けでした。

評価はS・A・B・Cの4段階で、それぞれ優・良・可・不可に相当します。当院の結果は評価87項目でS 2項目(2.3%)、A 64項目(73.6%)、B 18項目(20.7%)、C 3項目(3.4%)でした。SとA合わせて>75%の高評価でした。改善すべきC評価3項目に関しては、すぐに策を講じて改善・改良を終えました。

お褒めいただいた当院の良い点は、S評価2項目、「必要な情報を地域へわかりやすく発信している」「地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している」です。更にA評価でも『優れている』とお褒めいただいた3項目が、「多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている」「症状などの緩和を適切に行っていいる」「患者・家族への退院支援を適切に行っている」でし

た。

「適切である」A評価は64項目でしたが、下記8つの事項は特にお褒め頂きました。

「隣がんパス・緩和パスなど独自の取り組み」「個々の部署の質改善を目指す意欲」「看護管理よかとこ発見隊」「一年中花壇に花」「独自のアレルギーシート」「非常に分かりやすい基本理念」「積極的な働きやすく活力のある職場づくり」。廣田院長が現場を歩き回り、質向上に向けて取り組まれたご尽力の成果が高評価を受けました。一方、要改善事項はB評価以上で45項目ありました。既にその一つ一つに担当部署が割り振られ、継続的な対応が開始されています。

今回の病院機能評価受審を担当して、このような外部評価を定期的・継続的に受けることの重要性を実感しました。当院は2008年12月に病院機能評価で認証されましたが、5年後に更新できませんでした。その間「働きやすい病院評価・認証」を受けたものの、約9年のブランクがありました。2016年1月に廣田院長の命を

受け、当委員会で準備を進めてきました。

この間予期せぬ熊本地震もありましたが、病院挙げての準備作業と協力により予定通り受審できました。審査内容も進歩し、ケアプロセス調査など病院に求められる内容も変わりました。担当した病院職員には随分苦労をかけました。受審した少なからずの施設で担当職員がストレスで休職や退職した者も出たと聞きます。当院はそのようなこともなく認証となりうれしく思います。

最後に、今回の認証は全病院職員の努力と協力の賜物ですが、廣田院長の大所高所からのご指導・的を射たアドバイスがあつてのことです。今回晴れて認証となりましたが、まだまだより良い病院作りのためには「すべきこと」がたくさんあります。もちろん当院のすばらしいことも多く認識できました。時代の流れや国の制度に乗り遅れないよう、更に病院建て替えに向けて病院を内側から磨き上げるため、全職員精進していきます。



『乳がんを知ろう』



乳がんの診断と外科治療

外科医長 田嶋 ルミ子



2月24日に乳癌に対する市民公開講座を開催させていただきました。満員にちかい方々にお集まりいただき、乳癌への関心の高さに改めて啓蒙の大切さを実感しました。

乳がんは近年増加傾向にあり、現在11人に一人の割合で罹患するといわれています。一方死亡率は決して高いわけではなく、適切な初期治療うけることで高い治癒率が望めま

す。

この適切な治療の為に必要なのが、遺伝子背景やホルモン感受性の有無等からサブタイプの同定であり、サブタイプごとにそれぞれに合った治療選択していくことが必要になります。

この詳しい解説は熊大 乳腺外科の竹下先生にお願いし、今回私は乳癌の治療のうち、検診後精密検査や手術について解説させていただきました。乳がん手術の歴史から現在の主流である胸筋温存手術（乳房温存や乳房全摘除術等）に始まり、新たに保険適応とな

ったセンチネルリンパ節生検と再建手術も解説させていただきました。初期治療がその後の予後に大きく関係する乳癌ですが、同時に「整容性」という表面にみえる疾患であるからこそその議論点もあり、この点についてもお伝えさせていただきました。

残念ながら罹患率の高い疾患なので、たくさんの方が係わることが多い乳癌ですので、やみくもに恐れるのではなく、前向きに治療に取り組めるきっかけになれば幸いです。

乳がんにおけるMRIの役割

放射線科 吉村 明



乳癌診療における検査としてはマンモグラフィや超音波検査がまず最初に施行され、さらに細胞診や組織診で質的診断された後にMRIやCT、骨シンチグラフィ等での広がり診断がなされるのが一般的です。放射線科からはMRIの話題が最も皆さまのお役に立てるだろうと思い、乳腺MRIについてお話をいたしました。

まずMRIの簡単な基本原理について説明しました。MRIは放射線被ばくのない検査という利点がありますが、強力な磁力と電波を使用する検査ですのでMRI室への磁性体の金属の持ち込みは禁忌であり、吸着事故の原因になります。また金属物は画像の乱れを生じ、発熱によるやけどを生じる可能性もあります。

次に乳腺MRIの実際の流れと他モダリティと比較した際の特徴についてお話をしました。乳腺MRIは他モダリティと比較して感度の高い検査であり、

病変を見つける能力にすぐれています。特にDCIS（非浸潤性乳管癌）ではその40%が他モダリティでは見えないとされていますので、質的診断された後の広がり診断には、MRIが最も威力を発揮します。広がり診断以外のスクリーニング検査としては現時点では任意検診で使用されている段階ですが、今後の利用拡大がさらに期待される検査となっています。

乳がんの化学療法

乳腺・内分泌外科 竹下 卓志



今回の市民公開講座では、“乳がんの化学療法”という演題で、乳がんの治療戦略について講演をさせていた
だきました。

#1 乳がんの治療方針

乳がんは、浸潤がんであれば、基本的に全身療法を必要とします。全身療法は、乳がんの生物学的特性によって選択されます。ホルモン受容体陽性乳癌では、ホルモン療法が選択され、HER2受容体陽性乳癌では、分子標的薬であるトラスツズマブが化学療法とともに使用されます。また上記受容体が陰性である、いわゆるトリプルネガティブ乳が

んでは、化学療法が選択されることになります。

#2 原発乳がんに対する治療

上記で述べた生物学的特性に基づき、治癒を目指した治療方針となります。薬物療法単独では治癒が得られる確率は極めて低いため、術前治療あるいは術後治療として手術や放射線療法と併用し、根治を目指します。

#3 転移・再発乳癌に対する治療

上記で述べた生物学的特性に基づき、症状を緩和し、生活の質を改善し、延命をはかることを目指した治療方針となります。治療過程で乳がんが体内から消失することはまれであり、がんと付き合っていくイメージです。近年、新たな分子標的薬や免疫チエッ

クポイント阻害薬など薬物療法の進歩は目覚ましく、それ伴い、治療選択肢も増えてきています。

乳がんは、近年の芸能人のカミングアウトなどで悲観的なイメージを持たれがちですが、今回、治療戦略に基づいて治療を行えば、十分管理できることを伝えることができたなら、私の講演も社会貢献できたと思います。

乳がんを知ろうというテーマで一緒に講演させていただいた、外科 田嶋ルミ子先生、放射線科 吉村 明先生の講演は、その内容及びプレゼンテーション共に、大変勉強になりました。市民の皆様に乳がんについてアピールできた良い市民公開講座であったと思います。

平成29年度 出動協力医総会

平成30年3月9日(金)午後7時からメルパルク熊本において、平成29年度出動協力医総会・懇親会が、豊田理事の進行により開催されました。福島熊本市医師会長、米納熊本市健康福祉局総括審議員の挨拶のあと、熊本市救急医療対策事業における休日夜間急患センター功労者表彰(感謝状:会員3名、大学8名)が行われました。次に、本年度65歳になられた出動協力医の先生方4名及び29年度新たに協力医になられた先生ですでに65歳になっておられる先生方への記念品贈呈があり、出席された島田達也先生及び小

堀恭裕先生に贈呈されました。その後、表彰者(表彰状:個人8名、団体10施設)の紹介がありました。また、29年度から新たに協力医になつていただきました41名(内科30名、外科10名、小児科1名)の先生方の紹介があり、さらに平成30年度から新たに出動協力予定の先生方(内科1名、外科5名)の紹介もありました。その後、緒方運営委員会委員長を議長として執行部の前田理事から29年度の実績報告がなされました。総会終了後は加来熊本県医師会理事に挨拶で懇親会は始まり、例年どおり和やかなうちに終了いたしました。

地域医療連携室 吉村 真也

ました。休日夜間一次救急を継続していくためにも先生方のご協力を賜りますようご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて私ごとで申し訳ありませんが、本年3月をもちまして退職することとなりました。1981年の開院以来従事し、定年後も嘱託として勤めてきましたが諸事情により退職となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。大変お世話になりました。熊本地域医療センターの益々の発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

次の 熊本地域医療センター勉強会 のお知らせ

日時／4月23日(月) 19時開始

場所／熊本地域医療センター本館2階多目的ルーム

CC 45:呼吸困難

研修医・小島 摂先生 「下体浮腫と呼吸苦を主訴に救急搬送された一例」

循環器内科・平田 快紘先生 「最新のガイドラインに基づく心不全の定義、分類、診断、治療について」

退任の挨拶

● 永らくお世話になりました

消化器内科(非常勤) 相良 勝郎



この3月末をもって退任することになりました。平成20年3月末に定年退職後も、診療顧問として毎週2日の外来診療に従事していました。この間、5年間熊

本保健科学大学において医学検査学科・看護学科・リハ学科(PT/OT/ST)の教育を兼務していました。その卒業生たちが、臨床検査技師や看護師として当センターに勤務され、すでに中堅ところとして活躍されている姿を目のあたりにして大変心強い限りです。また、これまで多くの患者さん

をご紹介いただいた会員の先生方には厚く御礼申し上げます。今後は、熊本市医師会会員の一人として応援させていただく所存です。職員の皆さんにあっては医師会病院の改築移転に向けて知恵をだしあって実現されることを期待しております。本当に長い間ありがとうございました。



平成29年4月から1年間、呼吸器内科で後期研修医として学ばせていただき誠に有難うございました。それまで僻地医療の現場で主に総合診療に従事していた私にとって、都市部での専門科の診療は一方で不安を抱えながらも、新しい世界が開けていく喜びを感じた1年でした。

総合診療から専門科へ重心

を移して勉強をスタートさせたつもりの私でしたが、今振り返るとどの診療科もその本質は「目の前の患者さんにベストを尽くす」というもので、枝葉の違いはあれ同じ信念に根ざすものだと感じました。当院の冠する「地域医療」という言葉も同様で、区別して考えられるがちな僻地医療と都市部の地域医療ですが、「目の前の患者さんを守る」という信念に変わりはないと思います。

4月からは山都町に移り、

呼吸器内科 村本 啓

再び僻地医療に取り組みます。かつて作家のトーマス・マンは米国に亡命した際「私のいるところにドイツがある」と言ったそうですが、私も僭越ながら「私のいるところに地域医療がある」と言えるよう、搖るがぬ信念を持って今後も診療を続けていこうと思います。最後になりましたが、地域医療センターの皆様、医師会の先生方、そして地域住民の皆様のご多幸をお祈り致します。



昨年10月より半年間という短い期間ではありましたがあ、小児科の先生方やスタッフはもちろんのこと、他科の先生方や外来・検査などのスタッフの方々、また多くの開業医の先生方に大変お世話になりました。

日赤からこちらでの勤務となり、熊本市内の小児救急を担う二大病院を続けて経験で

きたことは、小児科医として非常に貴重な経験になったと思います。地域医療センターでは、多くは開業医の先生方からの紹介であり、どの症例も勉強させていただくことがとても多かったです。中には非常に重症な症例や、また当院での処置が困難な症例もあり、その際には日赤や熊大への転院となることもあったのですが、自分が他病院に紹介した患者さんがどうなったかというのは非常に気になるもので、日々開業医の先生

小児科 横山 智美

方はこのような気持ちで当院へ紹介されているんだということを改めて実感いたしました。

4月からは再度、日赤での勤務となります。ここで学んだことを生かし、今度は一戦力としてまた皆さんと一緒に勤務できるように、また一人でも多くの子供たちの笑顔が見られるように、新しい環境で頑張りたいと思います。短い期間ではありましたが、本当に有難うございました。

院長:清住 雄昭

発行責任者:地域医療連携室長 柳 文治

熊本地域医療センター〒860-0811 熊本市中央区本荘5-16-10

電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

電話番号(直通) 096-366-1323 FAX 096-363-3416

E-mail:renkei@krmc.or.jp ホームページアドレス:<http://krmc.or.jp>

編集後記

Y@歓送迎会の季節になりました。今年は例年よりも開花が早く、長い期間桜を楽しめました。

病院機能評価では、震災のときも本紙を発行し続けたことも高く評価していただきました。改めて寄稿、編集、印刷、送付など関わってくれた皆様に感謝いたします。

S@新年度を迎え、一致団結して励みます。